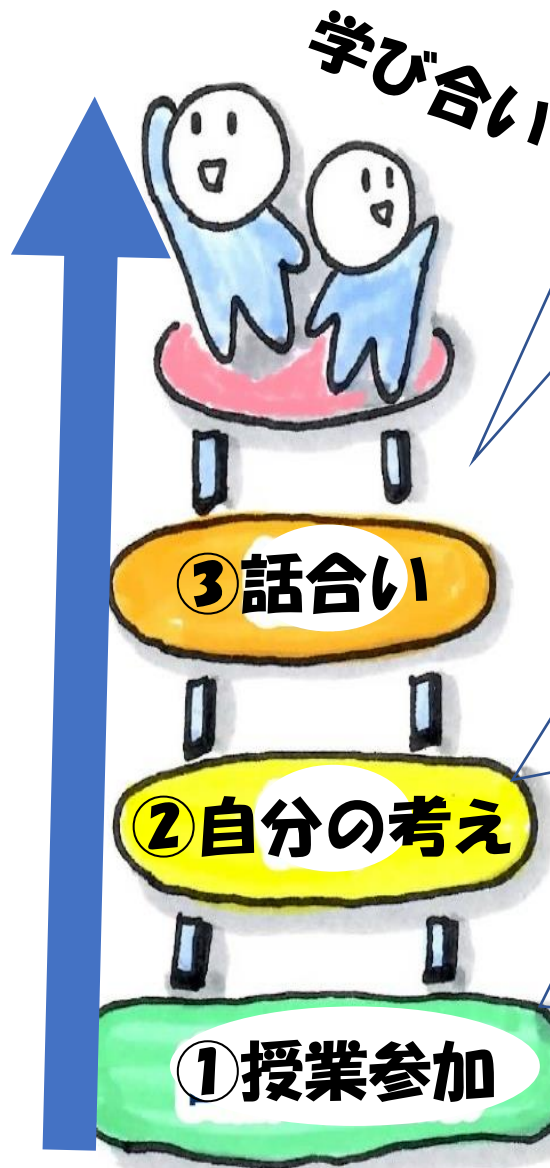


《研究主題》 「子どもたちが主体的に学び合う算数科学習」  
～充実した比較検討の場を目指して～

《目指す子どもの姿》

『自分の考えをもち、進んで伝え合い、学び合う子ども』

- ①問題と出会い、「考えてみたい！」とわくわくする姿
- ②子ども一人一人が自分の考えをもっている姿
- ③進んで考えを伝え合い、学び合う姿



《双方向の話し合い》

子どもたちが自分たちで話し合い解決できる姿

「ここまでではできたけど…」 「続きはどうしたらいいかな？」  
「どうしたらわかってもらえるかな」 「友達は何に困ってる？」  
「どの方法が一番いいかな？」

(手立て)

- ・発問(何を話し合うのか) ・数学的な見方・考え方
- ・「つなぐ」を意識させる。 →「広げる」「深める」
- ・聞き手を育てる。(反応の仕方)

《自分の考えをもたせる》

分からなくても、できるところまでやってみよう！  
色々な方法でやってみよう！

(手立て)

- ・見通しをもつ (何算かな？ 何図が使えるかな？  
どんな考え方が使えるかな？ )
- ・異同弁別(昨日とは何が違う？) ・問題文に線を引く
- ・算数アイテム(考え方のもとになるもの)

《授業に参加させる》

「考えてみたい！」とわくわくする姿

「わくわく」「考えてみたい」「やってみよう！」「できそうかも！」  
学習問題が子どもの言葉で作られる

(手立て)

- ・題材の工夫 ・実物の提示 ・ICT の活用 操作活動
- ・数字の工夫 ・手を挙げさせる(選択) ・口に出させる

《研究の仮説》

仮説1 「子どもたちが見通しをもつことを意識した指導をすれば、  
子ども一人一人が自分の考えをもつようになるだろう」

仮説2 「考えをつなげたり、考えのよさに目が向いたりするような指導をすれば、  
進んで考えを伝え合い、学び合う子どもが育つだろう。」